

令和4年度 学校図書館県内研修会 研修活動報告

1. 研修目標

司書・司書教諭及び図書館関係教職員の交流を深め、県内外の研修や相互の情報交換を通して、読書活動の推進はもとより、今日求められている情報センターとしての役割など学校図書館の充実について広く研究・協議する。

各学校の建学の精神に基づいた「理想の生徒像」を実現するために、学校図書館がどのようにその育成に寄与することができるのか。現状と理想のイメージを明らかにしながら、理想に向かう未来への過程の中に潜むシステムを明らかにすることで、今後何をしていくべきなのか、その具体的方法を検討する。

2. 期 日 令和4年11月30日(水)

3. 会 場 聖隷クリストファー中・高等学校
〒433-8558 浜松市北区三方原町3453

4. 参加人数 12人

5. 日 程

10:00 ~ 10:15 開 会

挨拶 飯田瑞穂部会長(桐陽高等学校 校長)

茨城久一郎副校長(聖隷クリストファー中・高等学校)

10:15 ~ 12:15 LEGO®SERIOUS PLAY®ワークショップ①

12:15 ~ 13:00 昼食・休憩・図書館見学 ※昼食は本会にて用意いたします。

13:00 ~ 15:45 LEGO®SERIOUS PLAY®ワークショップ②

<講師> 6名全員がLEGO®SERIOUS PLAY®メソッドと教材活用の認定ファシリテータ

田代正樹 (静岡聖光学院中学校・高等学校副教頭)

齋藤泰正 (静岡聖光学院中学校・高等学校教諭)

平本直之 (静岡聖光学院中学校・高等学校教諭)

秋本裕太 (静岡聖光学院中学校・高等学校教諭)

金原由貴 (聖隷クリストファー中・高等学校教諭)

安藤日向子 (聖隷クリストファー中・高等学校教諭)

15:45 ~ 16:00 事務連絡

16:00 閉 会

6. 研修目的について

<LEGO®SERIOUS PLAY®とは>

LEGO®社のブロックを用いて行うワークショップ。MITメディアラボのシーモア・パパート教授が提唱する、教育理論「コンストラクショニズム」を基に、2001年にプロトタイプが完成。NASAやGoogle、ソフトバンクといった会社でも社内研修や新規事業に用いている。

近年では教育業界でも注目されており、授業や各種活動に取り入れられていたり、入学試験に用いられたりしている。世界資格として、全世界各地で認定ファシリテータが活躍している。

7. 研修内容

<本ワークショップのゴール（参加者の方の状態目標）>

- ・ 建学の精神に基づいた理想の図書館をイメージすることができるようになる。
- ・ 理想を具現化することで起こる出来事を予測することができるようになる。
- ・ 理想を具現化するために「今できること」「今すべきこと」がわかるようになる。

<ワークショップの手順>

- ・ 1グループ3～4名に分かれ、テーマに沿って各自LEGOブロックを組み立てる。 (→思考の可視化)
- ・ 出来上がった作品に対し、なぜそうしたかをグループ内で説明・ディスカッションする。 (→作品の言語化)

<参加者からの声>

- ・ 「建学の精神に基づく理想の図書館」という抽象的で曖昧な物を、LEGOブロックを用い形にしていくことで、課題や関係性等が可視化できたことは驚きの経験だった。
- ・ 自分の中の理想の図書館像をワークショップを通じて明確化することができた。
- ・ LEGOブロックを用いた可視化により、自校の図書館を客観的に見ることができた。また、理想の図書館に近づけるための要素やそれらの関係性、優先順位を考えることの一助となった。
- ・ ワークショップを通じ、まずは自校の図書館の実態を知ることが大切であると感じた。
- ・ 組み立て過程も含め、「思考を可視化し、それを参加者同士で共有できる点」が、他のワークショップと異なる部分だと感じた。
- ・ 対個人ではなく参加者の作品を通じたディスカッションのため質問もしやすく、質疑応答を重ねることで思考の深度化にもつながった。また、活発なディスカッションにより自己肯定感や達成感を得ることができた。
- ・ どうすれば理想の図書館に近づくことができるかを、皆で一緒に考えることが大切であることを実感した。今回のワークショップのように、自校の先生方と共に考える機会を持ちたいと思った。
- ・ 他校の図書室の方との情報交換が出来て有意義だった。